

巻頭言

「10年たったら惑星科学会は壊す」

この表題は、惑星科学会設立の中心人物でもあった中澤清初代会長から学会設立間もない頃に私がときどき聞いた言葉です。惑星科学会が発足したのは1992年4月のことで、私は大学院生でした。発足に向けて全国の偉い先生達が文字通り奔走されていたのを見ていましたから、この人はいったい何を考えているのかと思ったものでした。しかし、よくよく聞いてみると納得はしました。曰く、学会を作ったのは自分達がそれを必要だと考えたから。一方、組織というものは時間が経つと腐っていくもので、いずれは当初の目的を忘れ、組織の存続そのものが目的になってしまうだろう。そうなったら、その時代の研究者にとって学会は有害以外のなにものでもない。君たち若い世代にそんな迷惑はかけたくないから、所期の目的が達せられたらさっさと壊すのだ、と。なるほどと思いました。

惑星科学会はその後現在にいたるまで、存続しています。幸い、存続そのものが目的となっているわけではなく、そのときどきで学会を必要とする理由があったからだろうと思います。実際、いま、学会が必要とされる理由や役に立つ面を挙げると言われれば、私はすぐに挙げることができます。(ここには記しませんけど。だからこそ、学会のためにちょっとボランティアしようかという気にもなるわけです。)こうした存在理由の確認や再認識は、各人が時々行っておくのが望ましいでしょう。もし、中澤さんが心配されていたような有害状態に陥っているのなら、早く気づいて学会を壊さないといけませんから。

ということで、今度は私が、私と私より上の世代の会員を代表して言います。「10年たったら惑星科学会は壊す....」

中本 泰史(東京工業大学)